

高齢者の特徴と傾向 in 王寺町

- 健康とくらしの調査2022とチェックインシステムを用いた通いの場効果評価からわかったこと ●●●

第9期王寺町介護保険事業計画及び高齢者福祉計画
第2回策定委員会
令和5年9月27日(水)13:30~15:30
やわらぎ会館3F研修室

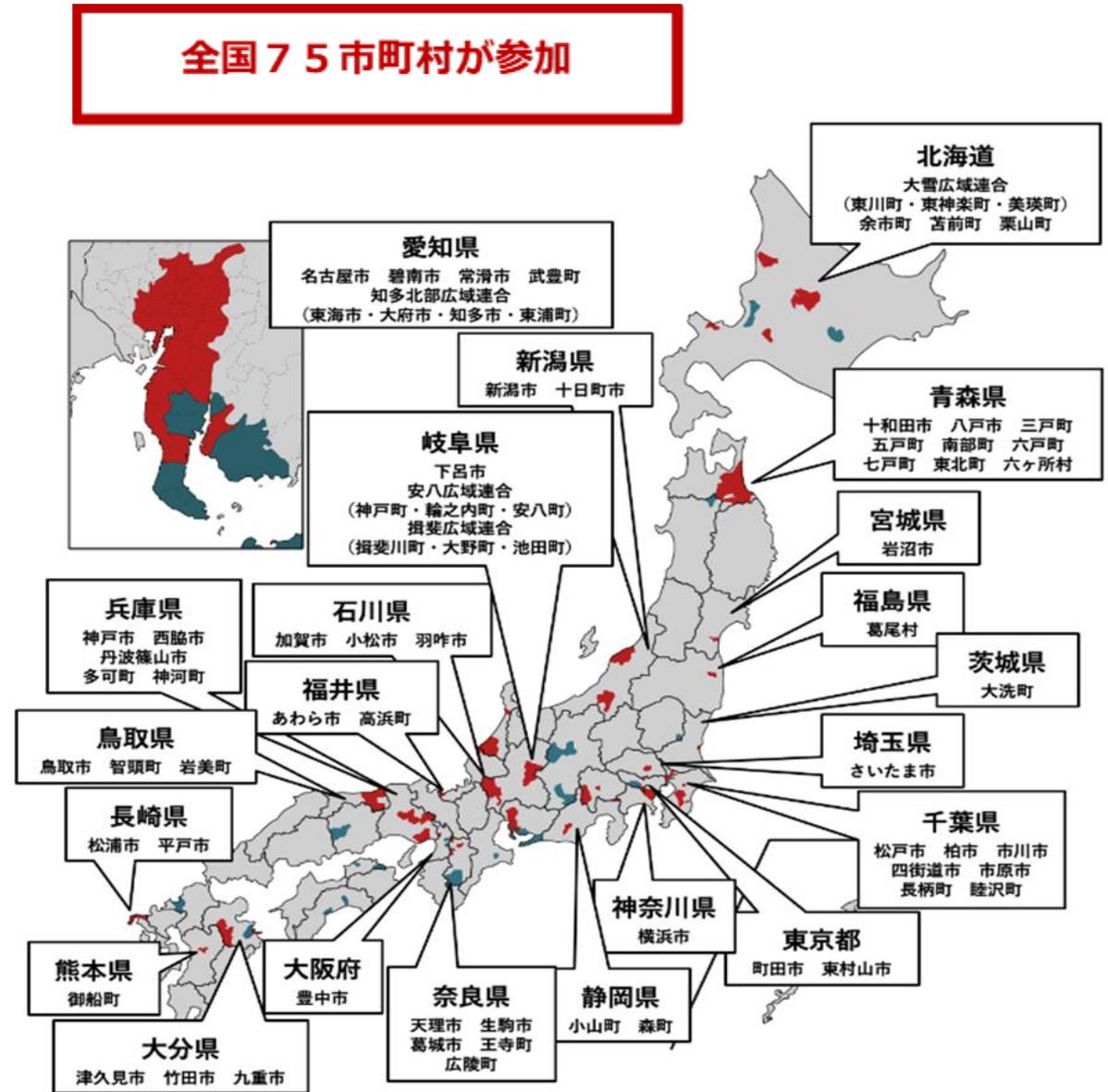


JAGES（Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究）では、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目的として活動しており、2022年度には、全国の75市町村と共同し、約35万人の高齢者を対象にした調査を行い、全国の大学・国立研究所などの約50人の研究者が、多面的な分析を進めています。

今回、王寺町は、JAGESが実施した「健康とくらしの調査 2022」に参加し、得られたデータから地域診断を行い介護予防や地域づくりに向けた施策を第9期介護保険計画に反映します。

王寺町の健康とくらしの調査概要	
対象者	一般高齢者+総合事業対象者+要支援者
実配布数	1,199人
調査期間	第1期(2022/11/07-2022/11/28)
回収数(率)	842票(70.2%)
集計数(率)	831票(69.3%) *調査票番号切り取り票を除いた
調査方法	サンプリング調査

全参加自治体_健康とくらしの調査概要	
対象者	調査実施直前で65歳以上のもの
参加数	75市町村(66保険者)
対象者数	338,242人
配布回収	郵送法、一部訪問調査
調査期間	2022年11月7日~2022年12月26日
回収数(率)	227,731票(67.3%)
調査方法	全数調査またはサンプリング調査



1. 特徴・強み指標 全国75市町村と比較して見えてきた強みと課題は以下の通りです。

指標名	今回	順位	前回	改善状況	回答者数	平均値	最小値	最大値
ソーシャル・キャピタル得点(社会参加)	85.8	1	-	-	748	54.5	17.7	85.8
残歯数19本以下の者の割合	30.6	2	-	-	745	40.8	30.3	71.1
認知機能低下者割合(基本チェックリスト)	29.9	2	-	-	755	34.3	29.0	42.8
主観的健康感が良い者の割合	88.0	2	-	-	759	84.2	78.1	88.0
グループ活動へ参加意向がある者の割合	64.9	2	-	-	733	55.9	44.5	65.3
IADL(自立度)低下者(1項目以上)割合	7.2	3	-	-	754	9.9	6.4	15.6
閉じこもり者割合	2.1	3	-	-	755	4.1	1.9	9.7
孤食者割合	5.2	3	-	-	752	7.3	3.9	12.4
うつ割合(GDS5点以上)	21.6	4	-	-	756	25.6	17.9	34.6
情緒的(心配事や愚痴)サポート提供者割合	95.5	4	-	-	753	93.8	91.0	96.2
認知症リスク者(7点以上)割合	8.8	5	-	-	761	11.4	7.6	18.9
通いの場参加者(月1回以上)割合	17.8	5	-	-	736	9.6	1.5	19.8
図書館を利用する割合	17.5	5	-	-	80	12.3	0.0	25.3
フレイルあり割合(基本チェックリスト8項目以上)	13.6	6	-	-	764	17.0	12.0	23.1
知的能動性低下者割合	11.1	6	-	-	755	14.1	9.7	26.3
幸福感がある者(8/10点以上)の割合	54.2	6	-	-	747	49.1	39.9	55.4

2. 課題指標

指標名	今回	順位	前回	改善状況	回答者数	平均値	最小値	最大値
低栄養者割合(基本チェックリスト)	2.6	73	-	-	729	1.8	0.5	3.2
BMIが18.5未満の者の割合	9.5	72	-	-	745	7.6	3.4	12.2
手段的(看病や世話)サポート受領者割合	93.2	64	-	-	753	94.3	91.9	97.1
独居者割合	18.4	63	-	-	756	16.0	7.7	34.6

1. 特徴・強み指標からわかること

・王寺町の健康関連指標での強みは、「残歯数19本以下」、「認知機能低下」、「IADL低下」、「閉じこもり」「うつ」、「認知症リスク」、「フレイル」、「知的能動性低下」の該当者が少なく、「主観的健康感が良い者」、「幸福感がある者」が多いことでした。

・社会参加・交流関連指標での強みは、「ソーシャルキャピタル得点(社会参加)」が高く、「グループ活動への参加意向」、「情緒的サポート提供」の割合が高いことでした。

・建造環境関連指標では、「図書館利用」の割合が高いことも強みとなっていました。

✿ 王寺町の強み

社会参加 (全国75市町村で1位)

✿ 王寺町の課題

低栄養者 (全国75市町村で73位)

2. 課題指標からわかること

・王寺町の健康関連指標での課題は、「低栄養」「BMI18.5未満」の該当者が多いことでした。

3. 特徴・強みや課題と関連する要因 特徴・強みや課題と関連する要因は以下のようなものがありました。

1. ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）が高いほど、残歯数19本以下、フレイルが少なく、主観的健康感良好、幸福感が高い



図3 残歯数19本以下の者の割合とソーシャル・キャピタル得点(社会参加_350点満点)との関連

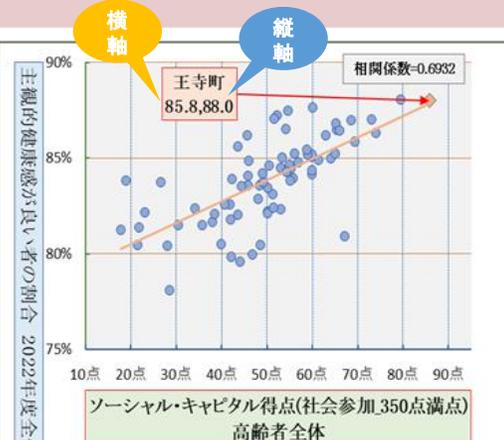


図4 主観的健康感が良い者の割合とソーシャル・キャピタル得点(社会参加_350点満点)との関連

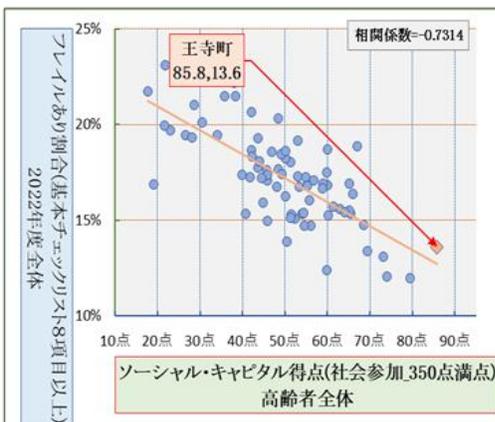


図5 フレイルあり割合(基本チェックリスト8項目以上)とソーシャル・キャピタル得点(社会参加_350点満点)との関連

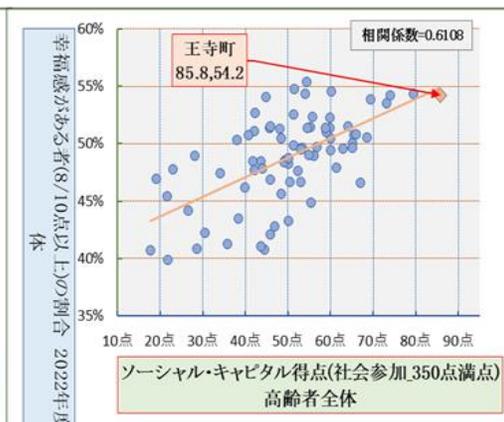


図6 幸福感がある者(8/10点以上)の割合とソーシャル・キャピタル得点(社会参加_350点満点)との関連

2. 通いの場参加者が多いほど、幸福感が高く、フレイルが少ない

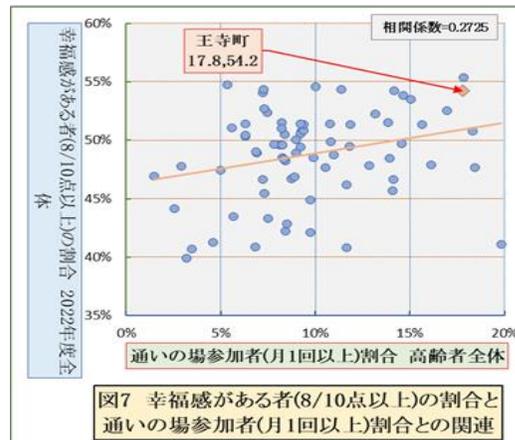


図7 幸福感がある者(8/10点以上)の割合と通いの場参加者(月1回以上)割合との関連

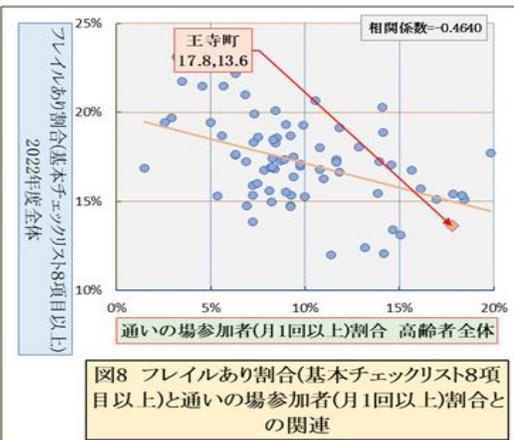


図8 フレイルあり割合(基本チェックリスト8項目以上)と通いの場参加者(月1回以上)割合との関連

3. 図書館を利用する者の割合が多いほど、認知機能低下者、うつが少ない

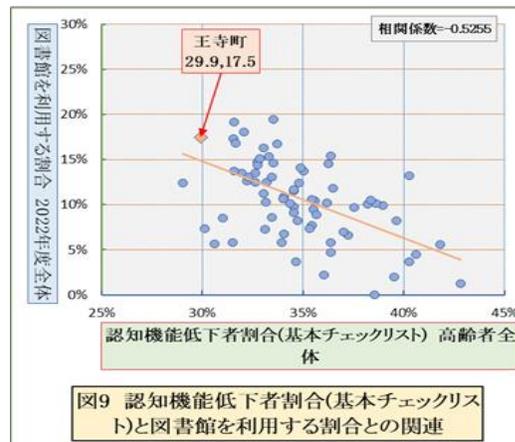


図9 認知機能低下者割合(基本チェックリスト)と図書館を利用する割合との関連

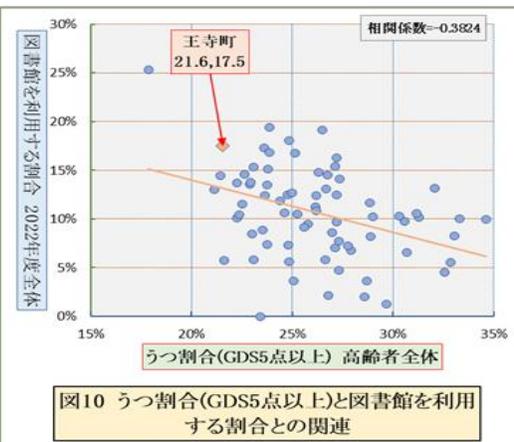


図10 うつ割合(GDS5点以上)と図書館を利用する割合との関連

- ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）が高いほど、残歯数 19 本以下、フレイルが少なく、主観的健康感良好で幸福感が高いことがわかりました。
- 通いの場参加者が多いほど、幸福感が高く、フレイルが少ないことがわかりました。
- 図書館を利用するものが多いほど、認知機能低下、うつが少ないことがわかりました。

王寺町の地域診断 概要 2022

JAGES「健康とくらしの調査2022」に参加した75市町村を比較評価した結果、以下のことがわかりました。

1 市町村間比較から見る特徴・強みと課題

- 王寺町の健康関連指標での強みは、「残歯数19本以下」「認知機能低下」「IADL低下」、「閉じこもり」、「うつ」、「認知症リスク」、「フレイル」、「知的能動性低下」該当者が少なく、「主観的健康感が良い者」、「幸福感がある者」が多いことでした。
- 社会参加・交流関連指標での強みは、「ソーシャルキャピタル得点（社会参加）」が高く、「グループ活動への参加意向」、「情緒的サポート提供」の割合が高いことでした。
- 建造環境関連指標では「図書館利用」の割合が高いことも強みとなっていました。
- 一方、王寺町の健康関連指標での課題は、「低栄養」「BMI18.5未満」該当者が多いことでした。

2 特徴・強みや課題と関連する要因

- 王寺町の強みである、「通いの場」「趣味の会」「スポーツの会」など「ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）」の高さは、様々な健康関連指標と強い関連があることがわかりました。この強みは、今後もソーシャルキャピタル得点の高さを生かすことで、課題である「低栄養」や「BMI18.5未満」の多さを解決する上で、有効な解決策の一つであるかもしれません。
- 図書館を利用するものが多いほど、認知機能低下、うつが少ないことがわかりました。図書館の利用者が多い強みを生かし、これらの施設を活用することは、王寺町のもつ強みをさらに強化維持することにつながるかもしれません。

3 市町村間比較から探る重点対象地域

- 「低栄養者割合」「BMI18.5未満の者」「独居者割合」が多いという課題指標について、町内に1.5～2.2倍程度の小地域間格差がありました。
- 2つ以上の重点対象地域となったのは、南部でした。*

4 市町村間比較から探る重点対象地域改善の手がかり

- 王寺町は多くの健康関連指標が良好であり、社会参加・交流関連指標を良好に保つことで強みを維持することができると考えられます。
- 北部地域に関しては、独居者割合が高く、独居者への対策も必要かもしれません。
- 課題指標（低栄養者割合）における重点対象地域の南部地域でも、グループ活動（企画・運営）へ参加意向のある者の割合は4割を超えており、すでにソーシャルキャピタルが豊かであるといえます。この点を生かし、地域の方々と共有し、新たな取組を実施することで、問題解決につながる可能性があります。

🌸 まとめ

王寺町は「社会参加・交流」が良好でそれに関連する良好な指標が多いことが特徴。グループ活動や通いの場を通じて「社会参加・交流」が促進され、幸福感が高く、認知機能低下やうつ、閉じこもりが低い傾向となっている。

引き続き、外出支援を推進しバラエティーに富んだ社会参加創出の機会を増やしていく必要がある。

また、今回の調査で意外な特徴は、「図書館」利用割合が多いこと。利用者は、「認知機能低下」「うつ」が少ないことがわかった。今後、「図書館利用者が多い」強みを生かした取組をすることが良好な指標を強化維持するのに効果的！

※北部：王寺、葛下、久度、元町、舟戸、藤井、本町
南部：太子、南元町、畠田、明神

低栄養者は、どのような人に多いのか



低栄養者は、社会参加が多い

深堀その1 低栄養の結果まとめ



	RR/OR			
	全対象	王寺町		近隣3町
		男性	女性	
フレイル	1.43	2.11	1.17	1.40
運動機能低下	0.85	2.68	0.56	0.87
低栄養				
口腔機能低下	1.11	2.55	0.66	1.22
閉じこもり	0.38		0.55	1.57
認知機能低下	0.99	1.12	0.95	1.12
うつ (KCL)	0.89	1.46	0.76	1.04
幸福感あり	0.82	0.43	0.89	0.89
抑うつ (GDS-15)	1.11	1.97	0.87	1.07
主観的健康観良好	0.95	0.86	0.97	0.96
趣味の会	1.04	1.14	1.04	0.77
スポーツの会	1.17	1.59	1.13	0.74
老人クラブ	1.58		1.89	0.72
学習教養	0.96	1.43	0.91	0.93
ボランティアの会	1.42	2.05	1.29	0.99
特技伝達の会	1.34		1.63	0.61
町内会	0.92		1.07	0.84
通いの場	1.60	3.79	1.56	0.76

	RR/OR			
	全対象	王寺町		近隣3町
		男性	女性	
友人と会う頻度	0.99	1.48	0.95	0.94
情緒的サポート受領	1.00	0.93	1.01	1.00
情緒的サポート提供	1.01	0.93	1.02	0.96
手段的サポート受領	1.02	1.02	1.02	0.98
手段的サポート提供	0.99	0.91	0.99	0.94
信頼	1.01	1.19	0.95	0.99
規範	1.07	0.91	1.11	0.93
愛着	1.00	1.06	0.97	0.94
喫煙	1.84	2.59	1.57	1.37
歩行時間 (30分以上)	0.99	0.64	1.07	1.00
健診 (受診あり)	0.97	0.92	0.98	0.98
肉・魚摂取頻度 (1回/日以上)	0.92	0.79	0.92	1.04
野菜・果物摂取頻度 (1回/日以上)	0.95	0.59	1.02	1.03

分析不可

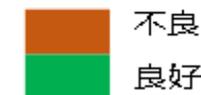
RR : Risk Ratio (リスク比), OR : Odds Ratio (オッズ比)

近隣3町と比較して、王寺町は低栄養者で社会参加多い
要介護リスクは男性で高い

P < 0.20



P < 0.05



社会参加の男女別の特徴



男性は、就労、ボランティアの会で社会参加が多い

深堀その2

社会参加・交流がない方の属性の結果まとめ



	RR/OR			
	全対象	王寺町		近隣3町
		男性	女性	
フレイル	1.28	1.40	1.22	1.48
運動機能低下	1.30	1.77	1.22	1.40
低栄養	0.50	0.07	1.02	1.25
口腔機能低下	1.14	1.08	1.14	1.15
閉じこもり	2.89	4.22	3.06	3.64
認知機能低下	1.19	1.50	1.04	1.05
うつ (KCL)	1.28	0.91	1.52	1.37
幸福感あり	0.82	0.68	0.88	0.77
抑うつ (GDS-15)	1.65	1.73	1.58	1.36
主観的健康観良好	1.00	0.98	1.00	0.86
趣味の会	/	/	/	/
スポーツの会	/	/	/	/
老人クラブ	/	/	/	/
学習教養	/	/	/	/
ボランティアの会	/	/	/	/
特技伝達の会	/	/	/	/
町内会	/	/	/	/
通いの場	/	/	/	/

RR : Risk Ratio (リスク比), OR : Odds Ratio (オッズ比)

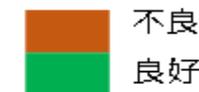
	RR/OR			
	全対象	王寺町		近隣3町
		男性	女性	
友人と会う頻度	0.55	0.29	0.67	0.66
情緒的サポート受領	1.00	1.00	1.00	0.97
情緒的サポート提供	1.01	1.01	1.01	0.94
手段的サポート受領	0.98	0.99	0.98	0.98
手段的サポート提供	0.96	0.92	0.99	0.92
信頼	0.90	0.97	0.86	0.85
規範	0.86	0.84	0.86	0.85
愛着	0.86	0.87	0.86	0.87
喫煙	1.23	1.51	0.53	1.32
歩行時間 (30分以上)	0.95	0.97	0.95	0.82
健診 (受診あり)	0.96	0.99	0.95	0.84
肉・魚摂取頻度 (1回/日以上)	0.93	1.06	0.87	0.80
野菜・果物摂取頻度 (1回/日以上)	0.89	0.79	0.95	0.90

分析不可

P<0.200



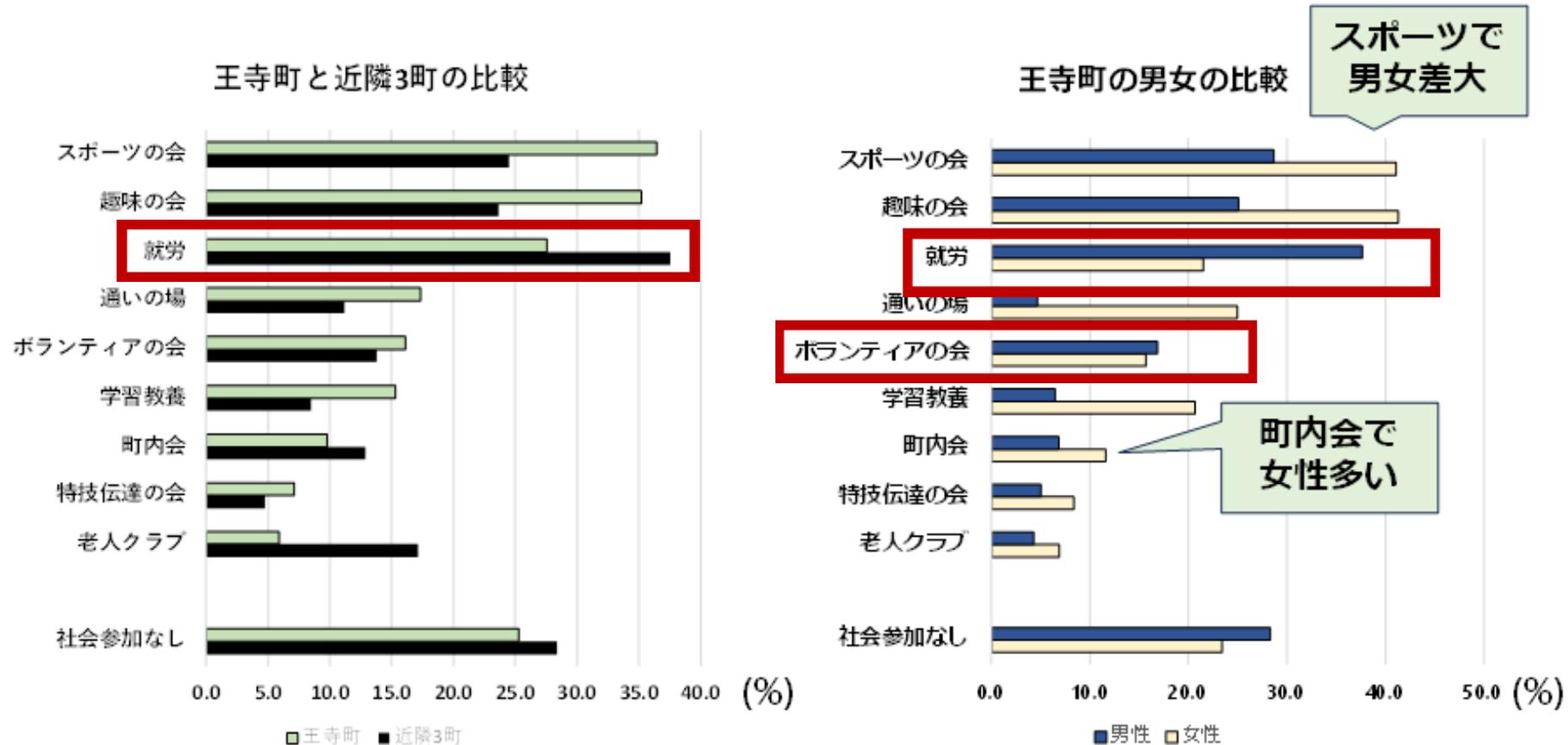
P<0.05



近隣3町と比較して、全体的にリスク指標が少ない傾向

深堀その3

社会参加・交流がない方の参考資料



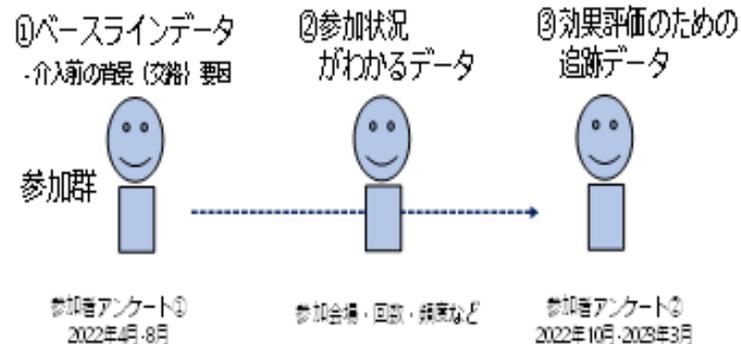
スポーツで男女差大

町内会で女性多い

近隣3町と比較して、就労が少なく、そのほかの社会参加多い

男性：就労、ボラ多い
女性：そのほかの社会参加多い

チェックインシステムの深堀分析で活用したデータ

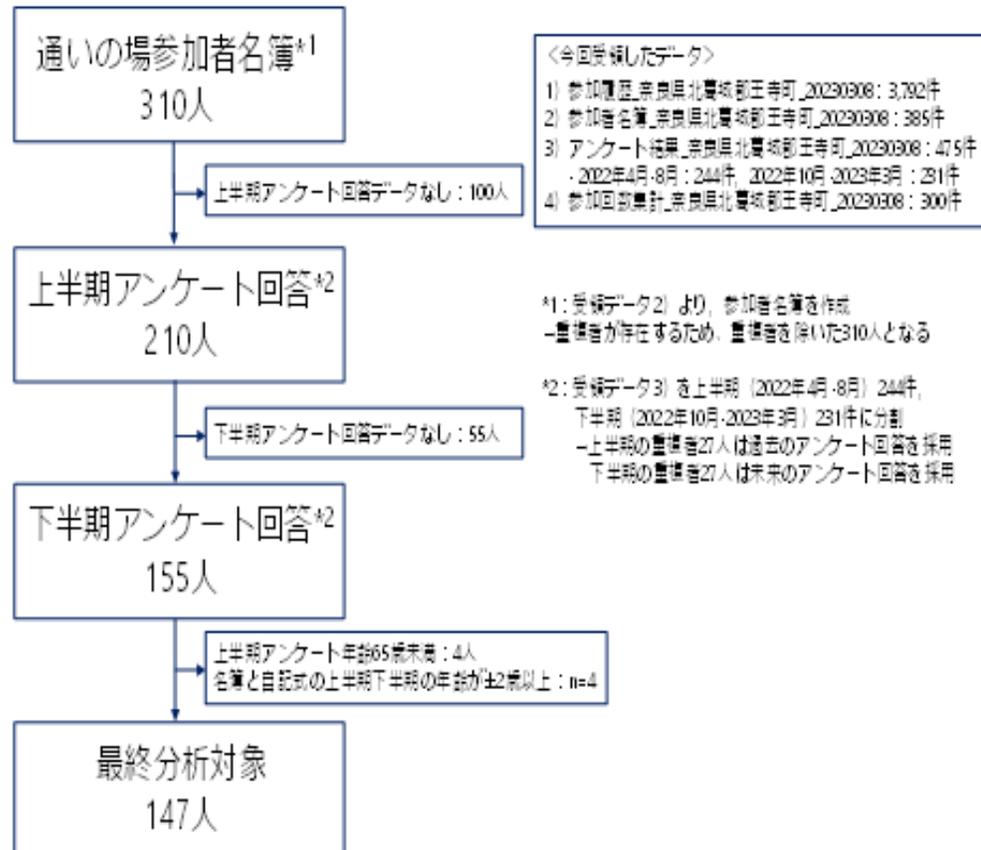


すべてチェックインシステムより取得

<今回受領したデータ>

- 1) 参加履歴_奈良県北葛城郡王寺町_20230308 : 3,792件
- 2) 参加者名簿_奈良県北葛城郡王寺町_20230308 : 385件
- 3) アンケート結果_奈良県北葛城郡王寺町_20230308 : 475件
- 2022年4月-8月 : 244件
- 2022年10月-2023年3月 : 231件
- 4) 参加回数集計_奈良県北葛城郡王寺町_20230308 : 300件

分析データ構築課程：参加頻度、参加形態の分析



アンケート項目



要支援・要介護
リスク評価点数

- ・性別はどちらですか
- ・年齢はいくつですか
- ・身長(cm)
- ・体重(Kg)
- ・BMI
- ・バスや電車を使って1人で外出できますか
- ・日用品の買い物ができますか
- ・銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか
- ・階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか
- ・椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか
- ・15分位続けて歩いていますか
- ・この1年間に転んだことがありますか
- ・転倒に対する不安は大きいですか
- ・昨年と比べて外出の回数が減っていますか

通いの場参加による変化

- ・健康について意識するようになりましたか
- ・健康を保つことができていると思うようになりましたか
- ・人との交流は増えましたか
- ・「地域には助け合いの気持ちがある」と思うようになりましたか
- ・しあわせを感じるようになりましたか
- ・健康に関する情報が増えましたか
- ・「地域の人信用できる」と思うようになりましたか
- ・気持ちが明るくなりましたか
- ・将来の楽しみが増えましたか
- ・通いの場（サロンなど）以外の会への参加が増えましたか

前向き感情
(ポジティブ感情)

- ・今の生活に満足していますか
- ・普段は気分が良いですか
- ・自分は幸せな方だと思いますか
- ・こうして生きていることは素晴らしいと思いますか
- ・自分は活力が満ちていると思いますか

要支援・要介護リスク評価点数



- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の必須項目（10問）と性・年齢で約3年以内の要支援・要介護認定を予測
→ 雛型（回答選択肢）変更に伴う予測妥当性も確認済（Watanabe R., et al. 2022）

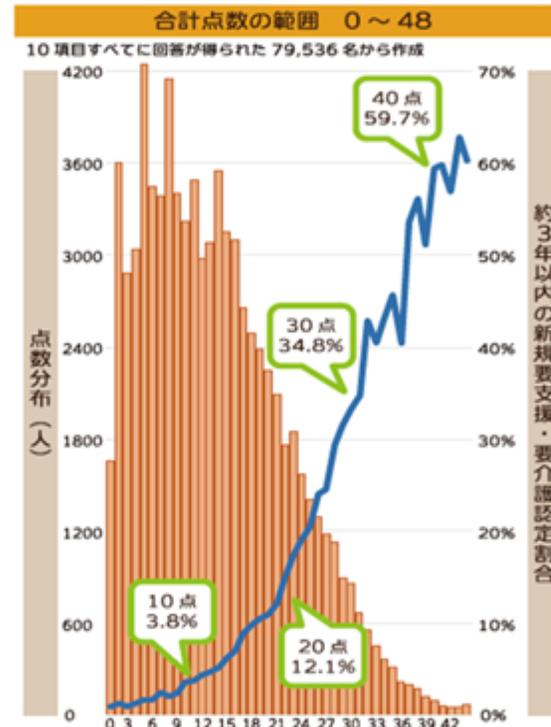
表 全国版「要支援・要介護リスク評価尺度」

①	質問項目	回答	点数
1	バスや電車を使って1人で外出できますか	いいえ	2
2	日用品の買い物ができますか	いいえ	3
3	銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか	いいえ	2
4	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	いいえ	3
5	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	いいえ	2
6	15分位続けて歩いていますか	いいえ	1
7	この1年間に転んだことがありますか	はい	2
8	転倒に対する不安は大きいですか	はい	2
9	“体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)”が18.5未満	はい	3
10	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	はい	3
②	男性		1
	女性		0

③ 年齢	質問項目	点数	質問項目	点数
	65歳	0	78歳	14
	66歳	0	79歳	15
	67歳	1	80歳	17
	68歳	1	81歳	18
	69歳	3	82歳	19
	70歳	4	83歳	19
	71歳	6	84歳	21
	72歳	7	85歳	21
	73歳	9	86歳	22
74歳	10	87歳	22	
75歳	12	88歳	23	
76歳	12	89歳	23	
77歳	13	90歳以上	24	

48点満点（点数が高いほど高リスク）

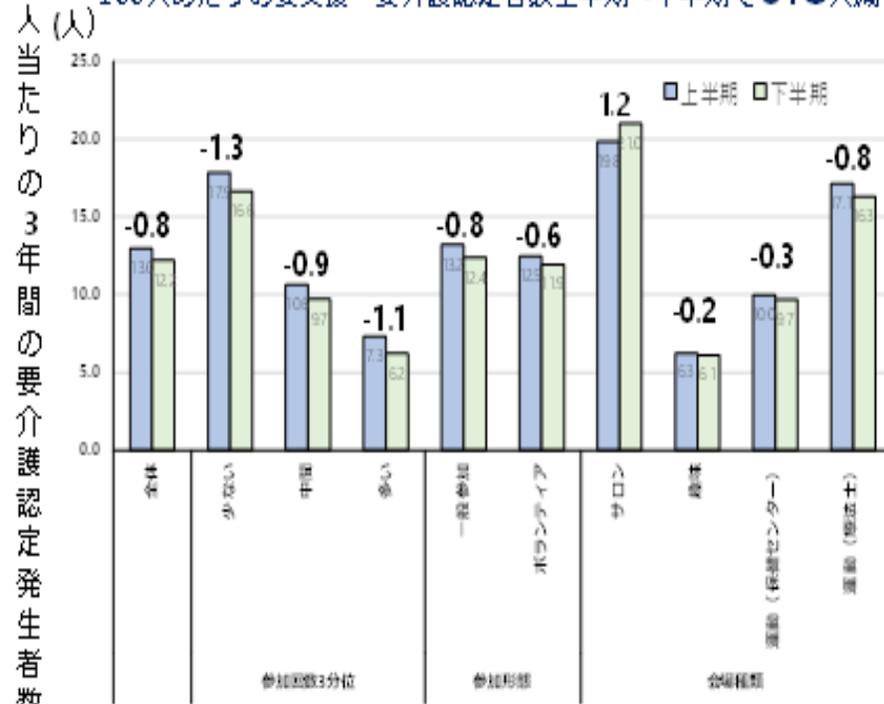
図 合計点数と約3年以内の認定割合



I. 分析②(1) : 要支援・要介護リスク点数(層別)



100人あたりの要支援・要介護認定者数 100人あたりの要支援・要介護認定者数 上半期～下半期で0.8人減



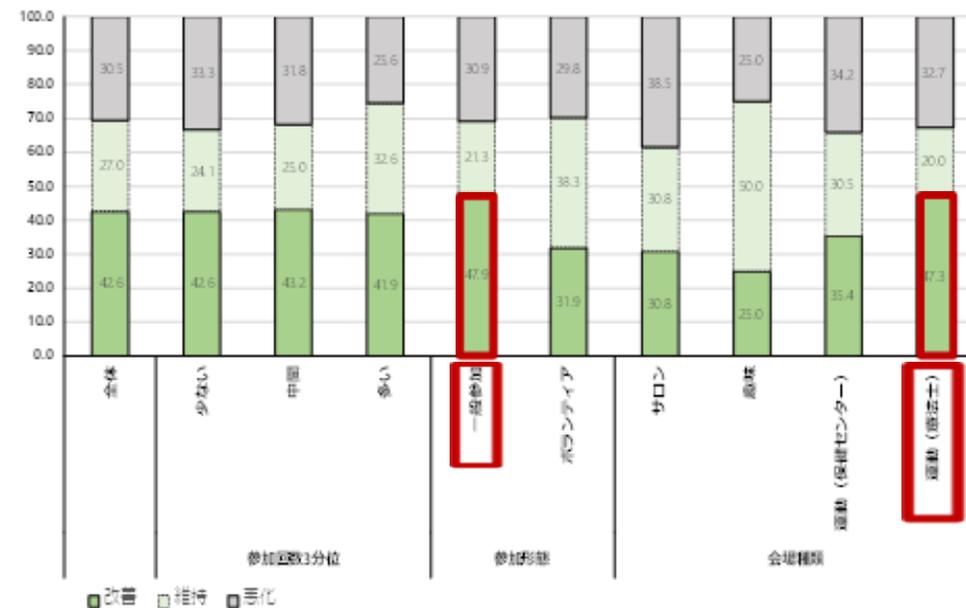
参加少ない、多い、一般参加、運動(療法士)で特に減少

- ・改善者が多いのは、一般参加、運動(療法士)である。
- ・維持者が多いのは参加回数多い、ボランティア、趣味である。

I. 分析②(1) : 要支援・要介護リスク点数(層別)



(%)



維持・改善者が多いのは参加回数多い、一般参加、趣味、運動(療法士)である。

アンケート項目



要支援・要介護
リスク評価点数

通いの場参加に
よる変化

前向き感情
(ポジティブ感情)

- ・性別はどちらですか
- ・年齢はいくつですか
- ・身長(cm)
- ・体重(Kg)
- ・BMI
- ・バスや電車を使って1人で外出できますか
- ・日用品の買い物ができますか
- ・銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか
- ・階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか
- ・椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか
- ・15分位続けて歩いていますか
- ・この1年間に転んだことがありますか
- ・転倒に対する不安は大きいですか
- ・昨年と比べて外出の回数が減っていますか
- ・健康について意識するようになりましたか
- ・健康を保つことができていると思うようになりましたか
- ・人との交流は増えましたか
- ・「地域には助け合いの気持ちがある」と思うようになりましたか
- ・しあわせを感じるようになりましたか
- ・健康に関する情報が増えましたか
- ・「地域の人は信用できる」と思うようになりましたか
- ・気持ちが明るくなりましたか
- ・将来の楽しみが増えましたか
- ・通いの場（サロンなど）以外の会への参加が増えましたか
- ・今の生活に満足していますか
- ・普段は気分が良いですか
- ・自分は幸せな方だと思いますか
- ・こうして生きていることは素晴らしいと思いますか
- ・自分は活力が満ちていると思いますか

人との交流が増えたと回答する割合が上半期～下半期にかけて
最大10.2%増加

チェックインシステム深堀分析のまとめ



I. 分析②(2)：通いの場参加による変化(層別)



	参加回数3分位				参加形態			会場種類	
	全体 62人	少ない 51人	中間 52人	多い 120人	一般 45人	ボラ 14人	サロ 9人	趣味 (卓球) 9人	運動 (療法士) 57人
健康について意識するようになりましたか	1.4	1.9	2.1	2.1	2.0	0.0	0.0	-1.2	7.0
健康を保つことができていると思うようになりましたか	2.0	-1.9	8.5	8.5	3.1	0.0	-21.4	11.1	3.5
人との交流は増えましたか	10.2	5.6	14.9	14.9	12.2	6.1	7.1	0.0	3.5
「地域には助け合いの気持ちはある」と思うようになりましたか	0.0	-1.9	-2.1	-2.1	1.0	-2.0	14.3	0.0	-3.5
しあわせを感じるようになりましたか	1.4	-1.9	4.3	4.3	2.0	0.0	0.0	0.0	1.2
健康に関する情報が増えましたか	0.7	0.0	4.3	4.3	-1.0	4.1	0.0	0.0	1.8
「地域の人は個々できる」と思うようになりましたか	-4.1	-7.4	-4.3	-4.3	-7.1	2.0	0.0	0.0	-8.2
気持ちが明るくなりましたか	-0.7	-5.6	4.3	4.3	1.0	-4.1	-14.3	0.0	-7.0
将来の楽しみが増えましたか	-2.7	-11.1	4.3	4.3	0.0	-8.2	-21.4	0.0	-4.7
通いの場(サロンなど)以外の会への参加が増えましたか	4.1	0.0	19.1	19.1	1.0	10.2	14.3	-44.4	2.4

I. 分析②(3)：ポジティブ感情(層別)



	上半期		下半期	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
全体(147人)	4.4	1.0	4.4	0.9
参加回数3分位				
少ない(54人)	4.2	1.0	4.2	1.0
中間(47人)	4.3	1.1	4.5	1.0
多い(46人)	4.7	0.7	4.6	0.7
参加形態				
一般参加(98人)	4.3	1.0	4.4	1.0
ボランティア(49人)	4.5	0.8	4.6	0.7
サロン(14人)	3.9	1.1	3.9	1.3
会場種類				
趣味(9人)	5.0	0.0	5.0	0.0
運動(保健センター)(85人)	4.5	0.8	4.5	1.0
運動(療法士)(57人)	4.3	1.0	4.3	0.9

- 2022年度チェックインシステムのデータを活用し、上半期・下半期のアンケート回答の変化を分析
- 要支援・要介護リスク点数、通いの場参加による変化、ポジティブ感情ともに良好な状態を維持。対象者別では以下の所見が得られた
 1. 要支援・要介護リスク点数は通いの場参加回数が多い、一般参加者、運動(療法士)で参加している者で点数が改善
 2. 通いの場参加による変化は、いずれの属性でも人との交流は増えている
 3. ポジティブ感情は趣味(卓球)実施会場で良好な数値を維持

ポジティブ感情(0-5点:点数が高いほど良好)は、
上半期、下半期とも高い水準を維持。
特に趣味参加者(卓球)で高い数値を維持

<引用参考文献>

井手一茂(千葉大学)/渡邊良太(日本福祉大学・千葉大学・JAGES) :「チェックインシステムを用いた通いの場効果評価」

渡邊良太(日本福祉大学・千葉大学・JAGES):「通いの場効果評価とJAGES2022を用いた深掘り分析報告書」

松村貴与美(JAGES・千葉大学):「JAGES2022調査概要版」



memo